

「大正2年新春の話題」

大正2年の鹿児島市の新春は、鹿児島初の電車の話題でもちぎりでした。路面電車が前年の12月1日に登場したばかりであったため「電車に乗った体験談」は格好の話題だったのです。

ドイツで発明された電車は、明治28年に日本に上陸してから全国へ広がっていきました。鹿児島市でも電車誘致の話が持ち上がり、電鉄委員会を設置し、先進地の視察をしましたが、財政上の問題で具体化しませんでした。そこで、明治44年10月、同市会議長の染川權輔氏が発起人代表となって資本金100万円で鹿児島電気軌道株式会社を設立し、大正元年12月1日に、その本社があった武之橋と谷山間（途中の停車場は、荒田八幡、騎射場、海浜院通り、二軒茶屋、脇田、塩屋に設置）に電車を走らせました。こうして全国で28

番目に登場した電車は、「市電」ではなく、「民営」だったのです。最大時速50*（普通時速25*）という電車の速さに、当時の市民は目を丸くし、驚きました。

料金は、全線を6区に分け、1区間の片道が2銭、これに通行税1銭がつき、武之橋〜谷山の全区間は13銭でした。当時の作業員の1日の賃金が60銭の頃ですので、決して安い料金とはいえませんでした。が、珍しさも手伝って乗客は多かったです。



大正初期の1号電車